

十島村教育委員会だより 平成31年3月号

# 世わやがトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号  
TEL 099-227-9771

## 3月・・・平成30年度をふりかえって

十島村教育長 有村孝一

この1年間、まさにいろいろな事がありました。そこで、主な教育委員会関係の出来事を振り返ってみたいと思います。

昨年4月2日、待ちに待った新船「フェリーとしま2」が就航しました。文字通り十島村にとっては、生活航路です。人はもちろん。役場からの文書、食料品、郵便、牛等。村はすべてをこの船に頼っています。約18年ぶりに新造船が作られました。全長が93.47m、幅15.80m、総トン数1,953トン、航行速度19.0ノット、旅客定員297人、搭載貨物がコンテナ26個、乗用車15台、12mトラック3台という現行船のどれをとっても大型化されています。時間も短縮され、乗り心地も素晴らしいです。新たに赴任する先生方も満足げな顔で、子どもたちや島民が待っているそれぞれの島に降り立ちました。

6月には、小学生は修学旅行で霧島や鹿児島市内の自主研修をして、「西郷どん大河ドラマ館」の見学もしました。中学生は、連合交流学習で伊集院北中との交流や高等学校訪問、村長と語る会や選挙啓発学習会で模擬投票などの体験をしました。

7月には、村教育研究大会が開催され、今回初めて教頭も参加して全教職員が参加しての研究大会となりました。学校閉庁にあたっては、出張所長の協力に感謝したいと思います。

8月には、自治体国際化協会(クレア)のJETプログラムによるALTの派遣がありました。5人のALTが島にやって来て、子どもたちの英語指導はもちろんの事、島民とのふれあいを通して、様々ないい影響を与えてくれています。来年度は、残る諏訪之瀬島と平島に来ていただくことになっています。2月には、ALTの様子を見るためにクレアから2人の職員に来ていただきました。小さな自治体に5人も派遣するという事はこれまで例がないということで、改めて興味深く中之島の視察をされ、他の島のALTとは、TV会議システムを使って状況を聞いていただきました。

11月には、フェリーとしま就航記念村民文化祭が開催されました。それぞれの島から、伝統芸能や新たな島の伝統などが披露され、村内からはもちろん出身者の皆さんの参加もあり400人を超える参加者があり、大いに盛り上がりました。その後開始されました「ふるさと会」でも、その話題でもちきりでした。

11月の末には、悪石島のボゼが、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。アフリカのモーリシャス国で開催されました政府間委員会の様子を、初めてのパブリックビューイングを見て、決定の瞬間に立ち会うことが出来て大変感激しました。

今年1月には、喜界町にてトカラウマ歓迎セレモニーが開催されました。もともと喜界馬をルーツにもつトカラウマの約120年ぶりの里帰りとあって、喜界



島の皆さんが大変喜んでおられました。村は、今後も喜界町とのトカラウマが結ぶ交流を続けていくこととなります。主な出来事をあげてみましたが、今振り返ってもそのときどきの事が思い出されます。時は春3月。先生方の異動の時期です。トカラでの様々な体験を糧に次の学校でもがんばっていただきたいと思います。

## シリーズ——新聞に投稿1「若い目」 (2月3日掲載) 諏訪之瀬島小学校3年 沖園 豪陽

シイタケのこま打ち

総合的な学習の時間に、シイタケのこま打ちをしました。シイの木にこまというシイタケのこまを打ち込みます。保さんが先生として教えるに来てくれました。はじめに、ドリルでシイの木にあなをたくさん開けられるように、保さんが開けてるところを見学して、順番に木にあなを開けました。いよいよ、ぼくの番です。ドリルの電げんを入れて「ウィー」と音がなり始めました。重かったけれど、何度も回転が速くて、あっという間にきれいなあなが開いて、おもしろかったです。シイの木1本に30こくらい開けました。

次に、そのあなにワインのふたのようなかたちをしたこまをさして、かなづちで打ってつめこみしました。「カッ、カッ、カッ」といい音がしました。まっすぐ打てずに「おずかしいな。つかれるな」と思いました。でも2本、3本と打っているうちに上手になりました。

さいごに、感想とお礼の言葉を言って、みんなで記念写真をとりました。今年の秋は、シイタケパーティーだな。楽しみです。

## シリーズ——新聞に投稿2「若い目」 (2月16日掲載) 宝島小学校5年 池亀 心優

「一つ」を大切に

「皆さんの家には水道の蛇口がいくつありますか?」日本ユニセフ協会から宝島小学校に講演に来てくれた立石さんの言葉で、なぜ蛇口の数を質問するのかわからなかった。外国のある村では水がたまる場所が1か所しかなく、しかもその水は濁っており、衛生的とはいえないそうです。しかし、その水を村のみんなが分け合っていることを知り、驚くとも水1滴の重みを感じました。

私が今学習で使っている国語のノートは、売りに寄られている世界の子供のために活動するユニセフの寄付金は、下痢による脱水症状を防ぐ経口補水塩1袋分になるそうです。

私たちは、病気になる病院に行きます。しかし、世界には十分な栄養や薬もなく、治療してもまたすぐに体調が悪くなるような国も多いと聞きました。一滴の水、1円の寄付金。1人の大切な命。どの「一つ」も大切に思う心が世界中に広がれば、もっと持続可能な世界の実現に近づくと信じています。

## シリーズ——新聞に投稿3「若い目」 (2月18日掲載) 中之島小6年 中島 礼人

3人いっしょに卒業しよう

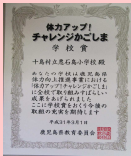
「3人よれば文殊の知恵」。これは僕たち6年生にふさわしい言葉です。去年の2学期は、僕と公大君の5年生2人だけの学級でした。考えることもほぼ同じで、あまりいい意見や考えが浮かびませんでした。でも3学期の途中、流桜君が加わってから、どんどん意見やいいアイデアが浮かんできました。分からない問題も、3人にかかれば楽勝で解けました。勉強以外にも、休み時間が楽しくなったり、学校での会話が増えたりしました。

授業では、2人ではできなかった議論も、3人いれば2対1でできるようになりました。まさに「3人寄れば文殊の知恵」です。

今は5年生との複式学級になり、久しぶりにおおせいで勉強することができています。8人いれば、3人の時よりもっといいアイデアや考えが浮かびます。中学生になっても3人で力を合わせ、難しい問題にも挑戦したいです。

## 悪石島小学校 3年連続学校賞!

「体力アップ! チャレンジかごしま」本村のどの学校も、「体力アップ! チャレンジかごしま」に取り組んでいます。県内420の小学校の中から10校が授賞した素晴らしい賞です。おめでとうございます。



## 「子ども読書の日」(4月23日) 『子どもも大人も一緒に、本を読みましよう』

## シリーズ——十島村で学ぶ 「口之島に来て驚いたこと」 口之島中学校1年 長谷川 宇宙

僕は、小学校一年生の時にこの口之島に来ました。それまでは熊本県益城町にいたので、島の生活のことは全く分かりませんでした。島民の方や先生方が優しく接してくれたので、島に慣れることができました。そんな僕は、口之島に来て驚いたことが二つあります。

一つ目は、お店が無いことです。販売所はありますが、そこには日用品などしか売っていません。だから、生協などを使って食料などを頼んでいる人がいます。また、船が出なかったら食材も来ないということなので、とても不便だと思いました。でも、今はそう思いません。すぐに慣れることができました。不便なところも確かにありますが、その不便さがかえって雄大な自然など、他の場所にはない素晴らしいものの存在に気付かせてくれたと思います。

二つ目は、同じ学校に小中学生と一緒にいるということです。口之島小中学校では同じ学校内に中学生もいて、行事など一緒にすると聞いていたので、うまくついていけるか不安でした。しかし、上学年がいろいろ教えてくれたので安心して取り組むことができました。今ではもう中学一年生になったので、逆に低学年に教えています。小学一年生から中学三年生まで、たくさんの方をみんなと力を合わせてしていることはすごいと思うので、これからも頑張っていきたいです。

このように、島に来て驚いたことがありますが、この島で過ごしていることが、とても良い経験になっていると思います。これから一日一日を大切に過ごして、島での生活を満喫したいです。

- ## 祝 がんばっています!
- ◎ 第34回県ゆめ立体・彫刻展 南日本放送賞 諏訪之瀬島小学校3年 沖園豪陽
  - ◎ 県「明るい選挙映発標語」優秀賞 小宝島小学校2年 岩下はやと 「つたえよう、じぶんのおもい、いっぴょうで。」
  - ◎ 最優秀賞 宝島中学校2年 平田一華 「当たり前選挙は自分の意思表示」
  - ◎ 優秀賞 悪石島中学校2年 西えほん
  - 〃 小宝島中学校3年 萩原康成
  - 〃 口之島中学校3年 中村拓海
  - ◎ 県「明るい選挙映発作文」優秀賞 宝島中学校3年 飯田輝星
  - ◎ 「維新未来博」作文コンクール 入選 悪石島小学校5年 片野田奏 諏訪之瀬島中2年 金森七海



## 特選(文部科学大臣賞)受賞! 諏訪之瀬島小・中学校

◎ 全日本学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部(中学校)

内容: 全国の中学校から5校入賞があり、諏訪之瀬島小・中学校は、中学校の部で1校という最高賞の特選(文部科学大臣賞)を受賞しました。

十島村では、「あいさつ・花いっぱい運動」を展開し、どの学校も煙害などの悪条件を克服しながら緑化に取り組んでいきます。諏訪之瀬島小・中学校の受賞は、十島村全体の喜びです。

## 【口之島小・中学校からのメッセージ】 教諭 外園 悠貴

今年の4月、私は7年間勤めた鹿児島市内の中学校から、この口之島小中学校へ赴任しました。初めての離島での勤務、生活とあって、正直なところ、赴任が決まった瞬間は不安しかありませんでした。慣れない生活、専門外の授業、そして初めての小学校児童との学校生活。これまで経験したことのないことばかりでした。

そんな中、赴任して最初の週末に、学校の親和会の先生方が島巡りを企画してくださいました。島の名所を回り、海水浴場やセラマ温泉、そしてガジュマルの木の見学に行き、目の前を覆う雄大な自然に、それまで感じていた不安が一気に解消された気分でした。それからは、マイナスに考えていた不安要素も、同僚の先生方やともに授業を行う生徒の助けを借りながら、一つ一つ克服していったと思います。特に専門外の授業については、慣れない教科ではありませんが、教材研究を深めるとともに、生徒の「分かった」という表情を見ることで、さらに研鑽に励もうとやる気も出てきました。小学生に対しても外国語活動を行う中で、とても純粋な表情で授業を受ける児童からパワーをもらうこともしばしばです。

「十島は一つ」という言葉を聞きました。有人7島の島々は一つの村で、教職員全員が協力することが大切な場所です。しかし十島のみならず、鹿児島県という大きなくりで見たとき、赴任先がどこであれ、そこで我々教職員を待っている生徒がいることに変わりはありません。これから先も、県内各地で必要とされる人材になれるよう、精進していきたいです。

